

## 天然甘味飼料原料について

ステビアの葉、ソーマトコッカスの種子及びカンゾウ(甘草)の根には糖類とは異なる甘味成分が含まれており、これらを原料とした製品が古くから食品等に利用され、その一部は飼料としても利用されることから、一般的に天然甘味飼料原料と呼ばれています。

これらの製品は、砂糖に比べて甘味が著しく高く、ステビア及びソーマチンは幼畜等の嗜好性改善に用いられています。また、カンゾウは健康維持を主な目的として利用されています。

近年、砂糖や乳糖を酵素処理することにより、フラクトオリゴ糖やガラクトオリゴ糖のような、いわゆるオリゴ糖類が製造され、食品の他、飼料用にも利用されています。これらの製品も、若干の甘味を含んでいることから、天然甘味飼料原料とみなされ、腸内有用細菌の定着や健康の維持等を目的として利用されています。

なお、糖蜜や砂糖なども飼料原料として利用されていますが、これらは嗜好性改善のほかに、エネルギー源としての価値も高く評価されていることから、天然甘味飼料原料とは区別されています。



<カンゾウ Glycyrrhiza uralensis, Glycyrrhiza glabra>

## 天然甘味飼料原料の流通実態

天然甘味飼料原料の製造量をまとめると表1のようになります。

表1 天然甘味飼料原料の製造量

天然甘味飼料原料の種類	製造量(t/年)
ステビア	16
ソーマチン	11
カンゾウ	35
オリゴ糖	2,800

これらの製品は、子豚及び子牛の代用乳や哺乳期育成用飼料に最も多く使用されており、いくつかの製品は、他の飼料にも一部使用されています。配合飼料等への配合割合は、天然甘味飼料原料の種類により異なりますが、0.1～0.5%程度が一般的です。

## 天然甘味飼料原料の品質

天然甘味飼料原料に含まれる甘味成分は種類によってそれぞれ異なります。現在流通している製品中の主な甘味成分及びその含量等を表2に示します。このうち、含量はメーカーの自主規格で定められている値ですが、本事業の中で流通量の比較的多い製品について分析した結果、これらの値は分析値との間に大きな違いはみられませんでした。

表2 甘味成分及び含有量

製品名	甘味成分	製品中の含量
		(%)
ステビア	総ステビオサイド	10
ソーマチン <sup>1)</sup>	ソーマチン	0.1～1
カンゾウ粉末	グリチルリチン	2～6
カンゾウ抽出物	グリチルリチン	6～30
オリゴ糖	オリゴ糖	10～41

注1) 含量分析は、実施していない。

注) 天然甘味飼料原料は使用量が少ないので、均一に混合することが大切です。